

## 調査レポート

### 沖縄県内における2013年プロ野球春季キャンプの経済効果

— 経済効果は過去2番目となる81億6,100万円 —

#### 【要旨】

- ・ 2013年の沖縄県内におけるプロ野球春季キャンプの経済効果は、過去2番目に大きい81億6,100万円となった。
- ・ これは、過去最高であった2011年(86億4,800万円)より少なかったものの、前年(78億6,300万円)を2億9,800万円上回った。
- ・ 観客数は好天に恵まれたことなどにより約29万3,000人と過去最高となった。そのうち、県外客も4万3,000人となり前年より約500人増加した。
- ・ 経済効果が前年を上回ったのは、観客数の増加による土産品・グッズの販売や飲食費などの消費が増加したことが、要因として挙げられる。
- ・ 経済効果を球団別にみると読売巨人軍が17億1,600万円と最も多く、次いで阪神タイガースが16億6,700万円であった。
- ・ また、経済効果を産業別に多い方からみると、宿泊業11億9,000万円、製造業11億4,500万円、飲食店9億4,500万円などの順であった。
- ・ 今後、キャンプを盛り上げるためには、キャンプ関連商品による消費喚起や球団と連携したファンサービスの強化などにより集客を図っていくことが必要である。

#### 1. 2013年の春季キャンプの概要

2013年3月に沖縄県内で春季キャンプを実施した国内プロ野球球団は、9球団となった。前年は10球団であったが、今回は広島東洋カープ(以下、球団名は「広島」のような略称を用いる)が例年キャンプに使用している沖縄市営球場が老朽化に伴う建て替え工事のため、使用できなかったことから1球団少なかった。そのうち5球団は前年同様に二軍のキャンプも実施した(図表1)。

まず、今年のキャンプの参加人数をみると、選手(一、二軍計)・球団関係者は全9球団合計で約1,000人、報道関係者や解説者が約1,900人であった。選手・球団関係者(前年比約100人減)、報道関係者・解説者(同150人減)は、広島のキャンプがなかったことや2月後半にワールド・ベースボール・クラシック(以下、WBC)日本代表の宮崎合宿に主力選手が参加したことが影響し、前年より減少した。

一方、キャンプ期間中の観客数は、約29万3,000人（オープン戦含む）となり、前年（約27万7,000人）より1万6,000人増加し、過去最高の観客数となった。増加要因として、天候に恵まれたことや沖縄県によるキャンプのPR事業（キャンプバスの運行、専用ポータルサイトの開設、県内外での広報等）などが挙げられる。そのうち、県外からの観客は、約4万3,000人（前年は約4万2,500人）と推察され、前年を約500人上回った。

（図表1）沖縄県内における2013年春季キャンプの実施状況

		日本ハム	※広島	中日	横浜	オリックス	ヤクルト	阪神	楽天	ロッテ	巨人
一軍	キャンプ地	名護市		北谷町	宜野湾市	宮古島市	浦添市	宜野座村	※久米島町	石垣市	那覇市
	期間	2/1～2/28		2/1～2/28	2/1～2/28	2/1～2/22	2/1～2/27	2/1～2/22	2/1～2/14	2/1～2/19	2/13～2/26
二軍	キャンプ地	国頭村		読谷村	嘉手納町	宮古島市			久米島町		
	期間	2/1～2/22		2/1～2/28	2/8～2/28	2/1～3/3			2/1～3/2		

※1.広島（一軍）のキャンプは、沖縄市営球場の建替え工事により期間を通して宮崎県で実施した。  
2.楽天（一軍）は、2/16～2/22に金武町をベースにキャンプを実施。

## 2. 経済効果の試算について

### （1）春季キャンプの関連支出額（直接支出額）

キャンプにおいては、県外からの滞在者が県内で宿泊、飲食、娯楽レジャー等に支出するほか、多くの県民がキャンプ地へ出かけて見学の際に飲食をし、土産品（グッズ等）を購入したりする。また、受入地の市町村による練習施設等のインフラ整備や協力会によるキャンプを応援するための関連経費の支出などがあり、これが直接支出額となる。

こうした支出額について試算した結果、総額で53億9800万円（図表2）となり、前年（51億6,900万円）を2億2,900万円上回った。試算結果の内訳をみると、土産品・グッズ購入12億1,100万円が最も多く、次いで宿泊費が11億8,100万円、飲食費11億6,500万円、交通費7億4,100万円、娯楽・レジャー4億7,700万円、練習施設等の整備費2億100万円などとなっている。

直接支出額の全体を通してみると、報道陣の減少などにより宿泊費は減少したものの、観客の増加により土産品・グッズ購入や飲食費が増加したことから、前年を上回った。

（図表2）春季キャンプ関連支出額

支出項目	支出額 （百万円）
土産品・グッズ購入	1,211
宿泊費	1,181
飲食費	1,165
交通費	741
娯楽レジャー	477
練習施設等の整備費	201
クリーニング代	76
アルバイトへの支払い	50
施設使用料	33
その他	263
合計	5,398

(2) 春季キャンプの沖縄県内における経済効果

まず、県内の産業全体の自給率は100%ではないため、(1)で求めた直接支出額53億9,800万円に自給率を掛けると県内で供給された分である47億6,400万円が求められ、これが直接効果となる。

次に、直接効果である宿泊費、飲食費、交通費、施設整備費などが県内で支出されると、当該産業だけでなく、こうした産業に原材料、サービス等を提供している産業の売上の増加へと波及していく。これを1次間接波及効果といい、これが21億500万円となる。さらに、直接効果と1次間接波及効果で生じた各産業における雇用者の所得増加は、これら雇用者の消費支出を増加させ、関連する各産業の生産を誘発していく。これを2次間接波及効果といい、これが12億9,300万円となる。

これらの直接効果、1次間接波及効果、2次間接波及効果を合わせた金額が81億6,100万円となり、これがいわゆる県内におけるプロ野球春季キャンプの経済効果となる。また、これらの効果のうち、賃金等の雇用者所得や企業の営業余剰などに当たる粗付加価値額が44億3,000万円となり、この中で雇用者所得が21億4,400万円となる(図表3)。今年の経済効果である81億6,100万円は、前年(78億6,300万円)を2億9,800万円上回り、これまでに最も大きい2011年(86億4,800万円)に次いで過去2番目に多い金額となった。

今年の経済効果である81億6,100万円を球団別にみると、巨人が17億1,600万円で前年に引き続き最も大きく、次いで阪神が16億6,700万円であった。

(図表3) 産業連関分析による経済効果の試算結果

【単位:百万円】

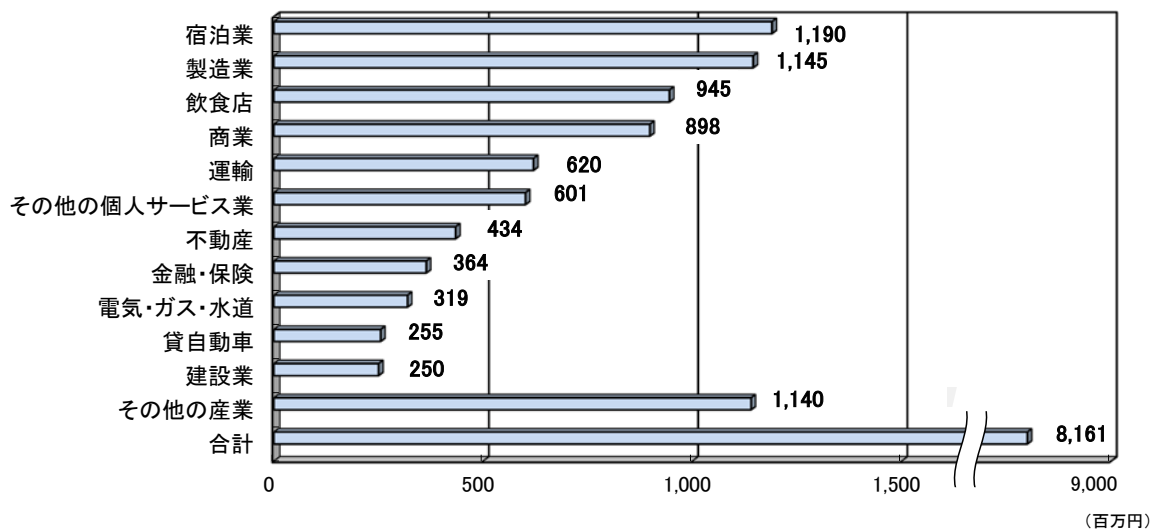
	経済効果 (生産誘発額)	粗付加価値 誘発額	
		雇用者所得 誘発額	
直接効果	4,764	2,499	1,319
1次間接波及効果	2,105	1,136	502
2次間接波及効果	1,293	796	323
合計(経済効果)	8,161	4,430	2,144
直接支出額 (波及効果)	5,398	(1.5倍) = (総合効果/直接支出額)	

- (注) 1. 直接効果は、直接の支出による効果(自給率が100%でなければ移輸入の分、直接支出額を下回る)。  
 2. 1次間接波及効果は、原材料を他の産業から購入することによって起こる波及効果。  
 3. 2次間接波及効果は、直接効果、1次間接波及効果によって生み出された雇用者所得の増加が個人消費の拡大を通して再び生産を誘発する効果。  
 4. 生産誘発額は、直接支出の増加により誘発された各部門の生産額の合計。  
 5. 付加価値は、誘発された生産額の中に占める粗付加価値(雇用者所得や営業余剰など)。  
 6. 端数処理により合計は合わないことがある。

(3) 産業別の経済効果

今年の経済効果である81億6,100万円を産業別にみると、宿泊業が11億9,000万円と最も大きく、次いで製造業が約11億4,500円（主に土産品の製造や食品加工など）、飲食店が9億4,500万円、商業が8億9,800万円、運輸が6億2,000万円、その他の個人サービス業6億100万円などの順となっている(図表4)。

(図表4) 産業別の経済効果



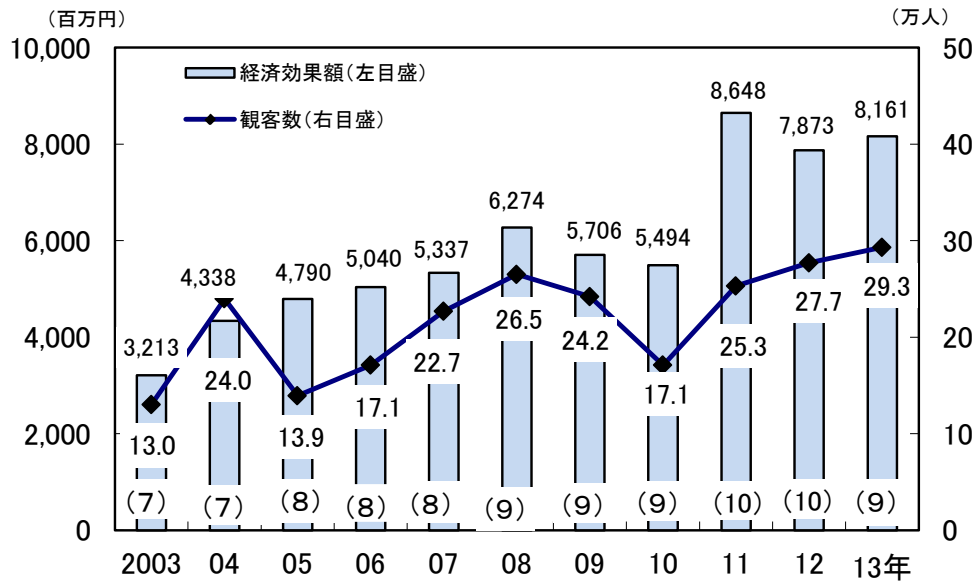
5. おわりに

2013年の県内のプロ野球春季キャンプは、広島のカンパがなかったことやWBC・日本代表の宮崎・宿に主力選手が参加したことなどの影響が懸念されたが、天候に恵まれたことや県のPR事業などによる観客の増加により過去2番目となる81億6,100万円となった(図表6)。また、日本ハムの新人の大谷選手などの効果や幾つかのキャンプ地において沖縄振興特別交付金(一括交付金)を活用した観客向けサービスの効果などもみられた。

今年に入って沖縄への入域観光客は増加して推移しており、プロ野球キャンプも冬場の集客に安定して貢献している。また、巨人が初めてキャンプを実施した2011年以降の経済効果も概ね80億円前後で推移しており、今後も同様に推移していくとみられる。

今後も引き続き、キャンプ関連のグッズや食品などの関連商品による消費喚起や球団と連携したファンサービスの強化などにより集客を図っていくことが必要である。

(図表5)プロ野球春季キャンプの経済効果と観客数の推移



※( )内は沖縄県内でキャンプを実施する国内プロ野球の球団数

以上

【補注1】プロ野球春季キャンプの沖縄県内での実施状況

暦年	日本ハム	広島	中日	横浜	オリックス	ヤクルト	阪神	楽天	ロッテ	巨人	ソフトバンク	西武
1979	(投手陣) 名護市	◎						(○)				
80		◎						(○)				
81	(一軍) 名護市 ○									◎		
82		沖縄市	○									◎
83			石垣市							○		◎
84	(二軍) 宜野座村 84年のみ	◎			○							
85			(投手陣) 具志川市				◎					○
86		○										◎
87			(一軍) 石川市 (二軍) 具志川市	宜野湾市						○		◎
88			○									◎
89			(一軍) 石川市 (二軍) 具志川市		(投手陣) 糸満市			(○)	(投手陣) 那覇市	◎		
90					(一軍) 糸満市					○	(一軍) 読谷村 (二軍) 嘉手納町	◎
91		○			(一軍) 糸満市 (二軍) 那覇市							◎
92						○						◎
93					(一、二軍) 平良市 糸満市	◎						○
94					(一、二軍) 平良市 糸満市 城辺町					◎		○
95					(一軍) 平良市 (二軍) 城辺町 ○	◎						
96	(二軍) 宜野座村		(一軍) 北谷町	(二軍) 嘉手納町	◎					○		
97			(二軍) 読谷村			◎						○
98				◎								○
99			○								◎	
2000						浦添市				◎	○	
01						◎		(○)				
02										◎		○
03	(二軍) 東風平町						宜野座村 ○				◎	
04			(一、二軍) 北谷町 読谷村 ○		(二軍) 平良市 城辺町							◎
05			(一軍) 北谷町 (二軍) 読谷村 北谷町		(一軍) 平良市		○	(一、二軍) 久米島町	◎			
06	(二軍) 八重瀬町 国頭村 ◎		(二軍) 読谷村 ○		(一軍) 宮古島市							
07	(二軍) 国頭村 ○		◎							○		
08									(一軍) 石垣市	○		◎ ○
09	○				(二軍) 宮古島市	(二軍) 八重瀬町				◎ ○		
10			○						◎		○	
11			○								◎ ○	
12	○									◎ ○		
13												
一軍 キャンプ地	名護市	宮崎県	北谷町	宜野湾市	宮古島市、 高知県	浦添市	宜野座村	久米島町、 金武町	石垣市	宮崎県 那覇市	宮崎県	宮崎県
二軍 キャンプ地	国頭村	宮崎県	読谷村	嘉手納町 神奈川県	宮古島市	東京都 宮崎県	高知県	久米島町	鹿児島県	宮崎県	宮崎県	埼玉県 高知県

(注) 1.太線内は沖縄県内で春季キャンプを実施。○はリーグ優勝、◎は日本シリーズ制覇。  
2.楽天の列の(○)は、05年からオリックスと合併した旧・近鉄のリーグ優勝。

## 【補注2】：本調査で使用した産業連関表について

本件調査では、沖縄県の2005年産業連関表を用いた。産業部門数で表示する部門表は産業分類35部門表をベースにしたが、35部門表ではキャンプにおける主な支出項目である「宿泊業」や「飲食店」、「貸自動車業」等の部門が明示されていないので、これらの産業部門については、県が公表した基本分類表（404行×350列）から該当する業種を抽出した。さらに、今回の分析において統合しても不都合がない部門を当社で統合し、本件調査の分析用に組み替えた。

また、産業連関表における各産業部門の自給率は、県内需要（＝県内居住者の需要）に対する自給率であるため、移輸出（＝非居住者の需要）は対象外となる。このため、統計上、移輸出である「県外からの滞在者の支出（＝非居住者の需要）」の経済効果を試算する際に、そのままの自給率を用いると不都合が生じる。例えば、宿泊業の自給率は、県内居住者の宿泊需要（県外旅行等を含む）のうち県内宿泊部門を利用した割合を意味するが、県内居住者の場合、県外宿泊の支出額が県内宿泊の支出額より大きい場合、県内宿泊業の自給率は低くなる。しかし、キャンプ関連の宿泊費や飲食費は全て県内で発生するため、こうした支出に対して県内での自給率が明らかに100%とみられる宿泊業、飲食店などについては自給率を100%に設定し直して使用した。

生産誘発額を求める式は以下のとおりである。

$$X = [I - (I - \bar{M}) A]^{-1} (I - \bar{M}) F$$

X：各産業部門の財・サービスの生産額

I：単位行列

$\bar{M}$ ：県内需要に対する移輸入係数（対角行列）

A：投入係数（行列）

[ ]<sup>-1</sup>：逆行列

F：最終需要額（直接支出額）

※ X（生産額）が、F（最終需要額）に対応する生産誘発額となる